

別添様式3

介護職員初任者研修カリキュラム (27.12.12 排泄・移動時間変更)

事業者名 株式会社三文サービス

研修事業の名称 プラチナ倶楽部介護職員初任者研修(通学コース)

1 職務の理解 (6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 多様なサービスの理解	3時間	<p>講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保健サービス(居宅・施設)、保険外サービス、横浜市などのサービスについて、ホームページと自社パンフを資料に理解する。 ○資料:ホームページ、自社パンフ ○映像学習:テキスト付属DVD ○演習「自分や家族が利用したサービス、欲しいサービス」
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護、通所介護、特養、有料ホームを例にそれぞれの仕事の内容を具体的に理解する。 ・ケアプランから始まるサービス提供にいたる一連の流れ、チームアプローチ、他職種との連携、地域社会資源との連携等、介護サービスの提供についてイメージを持たせる。 ○資料:実際の利用表を使う <p>《見学》</p> <p>自社の各施設(8事業所)を見学し、介護職の具体的なイメージを持って各科目の学習に取り組めるようにする。</p>
合計	6時間	
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 人権と尊厳を支える介護	6時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊦ 人権と尊厳の保持:個人の尊重、権利擁護、尊厳、プライバシーの介護現場での意味の理解 ㊧ 介護分野でのICFの考え方の理解 ㊨ 生活に質(QOL)と介護のかかわり ㊩ ノーマライゼーションの考え方 ㊪ 虐待の具体例、身体拘束の具体例と防止策などの理解 ㊫ 個人の権利を守る制度の理解 <p>個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業</p> <p>○演習:グループワーク「身近に感じた個人情報問題」</p> <p>実施方法:4,5人に分かれ個人情報やプライバシーについて話し合う。</p>

②自立に向けた介護	3時間	<p>《講義内容》</p> <p>⑦自立・自立支援、残存能力の活用、動機と欲求、意欲を高める支援、個別性・個別ケア、重度化防止などについて事例を挙げて説明し自立の理解を促す。</p> <p>○演習：「自分の老後をいかにして自立するか」 実施方法：10分程度で自分の老後の自立の準備を記す</p> <p>⑧自立支援のための介護予防の考え方、方法などを事例を挙げて説明する。</p> <p>○資料：実際の介護予防支援計画表</p>
合計	9時間	

3 介護の基本（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ㉞訪問介護と施設介護の違い、地域包括ケアの方向性についての理解 ㉟重度化防止・遅延化と利用者主体の姿勢、根拠のある援助や介護の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・チームケアの重要性（他職種チーム、社内チームの理解） ㊱介護にかかわる職種 <ul style="list-style-type: none"> 専門職種の理解（介護支援専門員、サービス担当責任者、生活相談員） 看護師や理学療法士との連携と支援と効果的なサービスの提供 <p>○資料：実際の担当者会議や医療連携の資料</p>
② 介護職の職業倫理	1時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護と尊重について。 ・個人情報の実際の取り扱いについて
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ㉞事故の予防と安全対策について様々な事例を紹介しながら対応法を学ぶ。 ㉟事故が起きた時の対応と報告（家族や市町村）、情報の共有などについて。 ㊱感染に対する正しい知識と対応法（感染源排除、遮断） <ul style="list-style-type: none"> ○演習：事故報告書を各自作成する <p>実施方法：事例を提示して、各自、市への事故報告書を記入してみる</p>
④ 介護職の安全	1時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の心身の健康管理と介護の質について ・ストレスマネジメント、腰痛の予防、感染の防止などについて <p>○演習：「基本的な手洗い法」</p> <p>実技方法：手洗い手順表に従って手洗いを行う（模擬手洗い）</p>
合計	6時間	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3時間	<p>《講義内容》</p> <p>⑦介護保険制度創設の背景と目的動向について ケアマネジメント 予防重視型システム 地域包括支援センター業務の理解 地域包括ケアシステムとは</p> <p>⑧仕組みの基本的理解 要介護認定の手順から始まる流れの説明</p> <p>⑨制度を支える財源、組織、団体の機能と役割などについて</p> <p>○演習「模擬一家族の認定申請と認定調査」 実施方法；各自が実際の認定申請用紙や認定調査用紙に記入してみる</p>
②医療との連携とリハビリテーション 「医行為と介護」	1.5時間	<p>《講義内容》</p> <p>介護職ができる医行為について</p>
②医療との連携とリハビリテーション 「訪問看護に関する部分」	1.5時間	訪問看護の仕組みと職務の理解、看護と介護の役割分担
②医療との連携とリハビリテーション 「リハビリテーション医療に関する部分」	1.5時間	介護現場でのリハビリテーションの理解と連携や制度
③障害者自立支援制度および その他制度	1.5時間	<p>《講義内容》</p> <p>⑦障害者福祉制度の理念、障害の概念、ICFの概念</p> <p>⑧障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで</p> <p>⑨個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援法</p> <p>○資料：横浜市の障害者支援の実際</p>
合計	9時間	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3時間	<p>《講義内容》</p> <p>㊦介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 相手の能力への理解と配慮、傾聴、共感の応答の重要性</p> <p>㊧コミュニケーション技法（言語的、非言語的、道具を利用したコミュニケーション）</p> <p>㊨利用者、家族とのコミュニケーションの実際 心理的理解 思いの把握 感情への共感 いたわりと励まし 押しつけや避難をしない アセスメント手法、ニーズとデマンドの違い ○演習「傾聴、共感の練習」 実施方法；お互いに利用者と介護者になり、傾聴と共感を実践してみる。</p> <p>㊩利用者の状態、状況に応じたコミュニケーション 視力、聴覚の障害、認知症に応じたコミュニケーション ○演習「視・聴・認知障害者との会話」 実施方法；二人組んで視聴覚障害者との会話のロールプレイを行う。</p>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	<p>《講義内容》</p> <p>㊦記録における情報の共有化の重要性の理解 記録の意義・目的と観察の重要性 記録の種類（個別援助計画書 ヒヤリハット 会議の記録 個別支援記録）</p> <p>㊧報告の留意点、連絡の留意点、相談の留意点</p> <p>㊨コミュニケーションを促す現場 ケアカンファレンスの重要性和参加の仕方 介護職に求められる観察眼 情報の共有 ○演習「個別支援記録の実際」 実施方法：訪問介護と通所介護での個別支援記録の様式を使い、記入の仕方を体験する</p>
合計	6時間	
6 老化の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	<p>《講義内容》</p> <p>㊦老化に伴う心身機能の変化の特徴 防衛反応の変化 喪失体験</p> <p>㊧老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響 身体機能、咀嚼機能、体温維持機能、精神的機能など ○演習「身近な高齢者の体の変化」 実施方法：グループに分かれ家族などの高齢者の体の変化や、それに伴う生活への影響を列挙する</p>

②高齢者と健康	3 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊦高齢者の疾病と生活上の留意点 骨折 筋力低下とその影響 関節痛 ㊧高齢者に多い病気の理解と介護上の対応 循環器障害の種類と危険因子および対策 老年期うつ病の特徴と認知症との関連 誤嚥性肺炎 骨折 関節症 歩行困難 認知症などの理解 感染症の予防 ㊨症状の観察と変化に気づく視点 ○映像学習：DVD「褥瘡や皮膚病関連の映像」 ○演習：「高齢者の病気の理解」 実施方法：小テストを行い、主な病気の理解度を確認する
合計	6 時間	

7 認知症の理解(6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	1時間	《講義内容》 ・認知症ケアの理念—パーソンセンタードケア 出来ることに着目する支援と介護
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	《講義内容》 ㊦認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント 健康管理 ㊧認知症の定義 物忘れとの違い せん妄の症状 ㊨日常の健康管理(脱水、便秘、低栄養、低運動、口腔ケア) ㊩治療法(薬物療法の理解) ○演習「医師が用いる認知症診断テスト」 実施方法：長谷川式、時計テスト、などのテストを実際に行ってみる
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2時間	《講義内容》 ㊦認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 認知症の中核症状、行動心理症状(BPSD) 不適切なケア 生活環境での改善 ㊧認知症の利用者への対応 気持ちの理解 尊厳 相手の世界に合わせる 環境をととのえる コミュニケーション的意識 観察と洞察など状況に応じた対応法 ○演習「BPSDの理解」 実施方法：小テストにより中核症状と BPSD の理解を確認する
④家族への支援	1時間	《講義内容》 ㊦認知症の受容過程での援助 ㊧介護負担の軽減の意義と方法
合計	6時間	
8 障害の理解(3時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	1時間	《講義内容》 ㊦障害の概念とICF ICFの分類と医学的分類 ㊧ノーマライゼーションの概念の理解

<p>② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識</p>	<p>1 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <p>㊦身体障害 視覚障害 聴覚平衡障害 音声言語咀嚼障害 肢体不自由 内部障害</p> <p>㊧知的障害</p> <p>㊨精神障害（高次脳機能障害、発達障害を含む）などの理解</p> <p>㊩その他の心身の機能障害</p>
<p>③家族の心理、かかわり支援の理解</p>	<p>1 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <p>・家族への支援 障害の理解、障害の受容支援</p> <p>・介護負担の軽減</p>
<p>合計</p>	<p>3 時間</p>	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
基本知識の学習	①介護の基本的な考え方	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づく介護（ICF視点での支援、我流介護の排除） ・法的根拠に基づく介護 <p>○演習「私の目指す介護職員の理想、資格、職場」 実施方法：グループワークで介護分野での自分の目標を確認する</p>
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因 ・心と体と行動との関係 <p>○演習「高齢者の心の理解」 実施方法：グループワーク「高齢者が抱える心の不安」 様々な視点から高齢者の気持ちを推測する</p>
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・ボデイメカニクスの活用 ・中枢神経と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・心と体を一体的に捉えることの重要性 ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点 <p>○演習1「バイタルチェックの実技」——チェック 実施方法：体温計、血圧計を実際に使ってみる</p> <p>○演習2「問診と身体チェックの仕方」——チェック 実施方法：問診票を渡して、問診し記録する</p> <p>○演習3：「身体各部の名称の理解」 実施方法：小テストで身体各部の名称を確認する</p>
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	6時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事と生活の理解 家事援助の基礎的知識と生活支援 ・生活歴の理解の重要性 ・自立支援と予防的な対応 ・主体性・能動性を引き出す ・生活習慣、価値観などの多様性の理解 <p>○演習「要望(デマンド)と課題(ニーズ)の違い」 実施方法：様々な利用者からの要望を列挙し、グループで対応方法を検討する。介護保険でできることとできないことの理解</p>

<p>⑤快適な住環境整備と介護</p>	<p>3時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者のための居住環境整備と福祉用具の利用の留意点と支援方法 ・家庭内の事故とその対応方法 ・バリアフリー 住宅改修 福祉用具貸与など ・じょくそう予防関連福祉用具について <p>○資料:福祉用具カタログ ○演習「各種福祉機器の理解」 実施方法:様々な福祉用具の基本的な名称の小テスト</p>
<p>⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>3時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容の基礎知識と技術支援 ・身体状況に合わせた衣服の選択と着脱 ・身支度、整容行動、洗面の意義と効果 ・目、鼻、耳、爪の清潔方法 <p>○映像学習:テキスト付属DVD ○演習1:顔の清潔方法(目、鼻、耳) 実施方法:二人組んで寝たきりの方の顔の清潔法を行う ○演習2:衣類の着脱の介助 実施方法:要介護3-右麻痺の方の上衣下衣の着脱の介助を行う 備品 衣類は各自持ってくる ○演習3:爪切り 高齢者の爪を想定して爪切りの一連の流れを行う</p>

<p>⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>9 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎知識 ・さまざまな移動、移乗の関連用具と活用方法 ・利用者、介助者にとって安全で負担の少ない移動・移乗 ・移乗移動の阻害要因の理解と支援方法 ・移動と社会参加の留意点と支援 ・利用者、介護者に適した利用方法、残存能力の活用 ・ボデイメカニクス（重心、重力の活用） ・具体的な移乗を演習で実施 ・じょくそうの予防 その他 <p>○映像学習：テキスト付属DVD</p> <p>○演習1：体位・姿勢変換の方法 実施方法：要介護 3—右麻痺の方の仰臥位から端座位への変換、水平移動、上方移動を各自体験する 備品 ベッド4</p> <p>○演習2：端座位から車椅子への移乗 実施方法：要介護 3—右麻痺の方の端座位から車いすへの移乗のケースについて各自体験する 備品 車椅子10 ベッド4</p> <p>○演習：3「車椅子の基本動作」 実施方法：車椅子の準備、注意場所、キャスター上げと移動段差の昇降、坂道の昇降、狭い場所での回転などを各自体験する 備品 車椅子10</p> <p>○演習：4「様々な状況での歩行介助」 実施方法：要介護 3 で右麻痺の方の、手すりのある室内、段差の昇降の歩行介助を各自体験する 理解度をチェックする （浴槽への移動は入浴の項で行う） （トイレへの移乗は排泄の項で行う）</p>
--	-------------	--

	<p>⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識、食事環境の整備、食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態と体の仕組み 食事行為を阻害する要因の理解と支援方法 食事と社会参加の留意点と支援方法 ・食事をする意味 食事のケアに対する介護者の意識など ・低栄養、脱水、食事姿勢への理解 ・咀嚼と嚥下のメカニズム ・空腹感、満腹感、好みと食事環境の整備（時間、場所） ・食事関連福祉用具の活用と介助方法 ・口腔ケアの定義と方法 ・誤嚥性肺炎の予防など <p>○映像学習:テキスト付属DVD</p> <p>○演習1:「状態像に応じた食事の準備 刻み、とろみ 禁食病人食などのへの対応」</p> <p>実施方法:刻みの仕方、トロミの付け方を体験する</p> <p>備品 各自食事と飲み物を用意する(弁当等) 包丁 トロミ剤</p> <p>○演習2:「状態像に応じた食事介助」</p> <p>実施方法:状態像1(要介護3右麻痺)、状態像2(寝たきり)の食事介護の仕方を体験する</p> <p>備品 吸い飲み10 スプーン等は各自用意</p> <p>○演習3:「口腔ケア」</p> <p>実施方法:要介護3・右麻痺の方の一食後の口腔清拭を行う。</p> <p>備品 スポンジブラシ人数分 タオル等 各項目チェック</p>
--	-------------------------------------	------------	---

	<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところからのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴・清潔保持に関連した基礎知識、入浴用具と整容用具の活用方法 快適な入浴を阻害する要因の理解と支援方法 ・羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認、 ・全身清拭（身体状況の確認 室内環境の調整 備品の準備と使用方法 全身の拭き方 支え方） ・清拭（全身・陰部）、足浴、洗髪などの方法 <p>○演習－1「足浴」——チェック</p> <p>実施方法：端座位での足浴の一連の流れが理解できるように一人ずつ行う</p> <p>備品 ベッド4 バケツ・タオル等一式4人分</p> <p>○演習－2「ベッド上での洗髪」</p> <p>実施方法：お湯での洗髪、ドライシャンプーでの洗髪のいずれかを体験する。</p> <p>備品 ベッド4 バケツ・タオル等一式4人分</p> <p>○演習－3「全身清拭（陰部を含む）」</p> <p>講師のやり方を見て全体的な流れを理解する。</p> <p>備品 ベッド4 バケツ・タオル等一式4人分</p> <p>○演習－4「浴槽での入浴の一連流れ」</p> <p>場所：デイサービスプラチナ倶楽部</p> <p>実施方法：状態像（要介護3、右麻痺）の方についての入浴を下記の手順に従って行う</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「声掛け 体調確認 身体観察」 2 「状態像に応じた入浴方法の選択」 3 「シャワー浴のやり方」 4 「浴槽への出入り介助」 5 「全身の拭き方、支え方」 <p>備品 通所介護事業所の備品を一式借りる 各項目チェック</p>
--	--	-------------	--

<p>⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関連する基礎知識、環境整備と用具の活用方法 ・排泄を阻害するからだと心の要因の理解と支援方法 ・排泄の身体面、心理面、社会的な意味 ・プライド、羞恥心、プライバシーへの対応 ・おむつ利用の弊害と必要性 ・排泄障害が日常生活に及ぼす影響 ・便秘の予防と対応法（食事、マッサージなどの工夫） <p>○映像学習:テキスト付属DVD</p> <p>○演習ー1「要介護3 右片麻痺の方の排せつ介助」 実施方法:グループに分かれ、下記のケースについて体験する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1「トイレへの誘導から手洗いまで」 2「ベッドからポータブルトイレを利用し戻る」 <p>いずれかを選んで一連の流れを行う</p> <p>備品 通所介護事業所の備品を一式借りる 各項目チェック</p> <p>○演習ー2「寝たきりの方のおむつ交換」 実施方法:ベッド上で実際におむつの交換を行う</p> <p>備品 ベッド 紙おむつ</p> <p>○演習ー3「尿器、差し込み便器の使用法」 実施方法:寝たきりの方の排尿、排便介助の流れを体験する</p> <p>備品 ベッド 尿器 差し込み便器</p>
<p>⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>3時間</p>	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識 ・様々な睡眠環境と用具の活用方法 ・睡眠を阻害する心と体の要因の理解と支援方法 ・安眠のための介護の工夫、環境整備 ・安楽な姿勢とじょくそう予防と福祉用具 <p>○映像学習:テキスト付属DVD</p> <p>○演習ー1「ベッドメイキングとシーツ交換」 実施方法;ベッドメイキング、三角コーナーのつくり方、シーツのたたみ方を体験する</p> <p>備品 ベッド4 シーツ8</p> <p>○演習ー2「身体介護でのシーツ交換」 実施方法:寝たきりの方が寝ている状態でのシーツの交換を行う</p> <p>備品 ベッド4 シーツ8</p>

	⑫死にゆく人に関する こころとからだのしく みと終末期介護	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識と心と体の仕組み ・死に向き合う心の理解と苦痛の少ない死への援助 ・終末期ケア（自然死 癌死）などの理解 ・臨終の兆候と介護 ・死にのぞむ介護者の基本的態度と多職種間の情報共有の必要性など <p>○演習：「身近な死についての体験」 実施方法：グループに分かれ身近な人の死についての体験を 発表し、介護におけるヒントを得る</p>
生活 支援 技術 演習	⑬介護過程の基礎的理 解	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的。意義・展開 ・介護過程とチームアプローチ ・総合生活技術演習の説明と準備 <p>○演習：「利用者、介護職員に分かれての役割分担と状態像 の確認」 実施方法：次回の総合生活支援技術演習のためのグループ 分け、役割分担、流れの確認などをおこなう。 また、アセスメント、介護計画、介護手順などの 書き方などを確認する</p>
	⑭総合生活支援技術演 習	9時間	<p>演習目的：生活の各場面での介護について、事例を想定し（2 例）、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得</p> <p>○演習場所：デイサービスプラチナ倶楽部 備品はすべて事業所のものを借りる</p> <p>○演習「事例1」 実施方法：利用者チームと介護者チームに別れデイサー ビスでの一連の流れを想定し行う。終了後それぞれの立場 から介護の方法について課題を検討する。 役割を交替して同じ内容を行う 手順の流れと習得度をチェック</p> <p>○演習「事例2」利用者チームと介護者チームに分かれ自 宅での介護を想定して行う。終了後それぞれの立場から介 護の方法について課題を検討する。</p> <p>○詳細は総合生活支援技術演習計画書をご覧ください 演習で使用する備品は通所介護事業所の備品をそのまま利用 する。</p>
実習		6時間	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先は別紙リスト（6事業所）から受講者の希望などを 考慮して各自1箇所を選定する ・生活支援技術演習で一定水準を越えていることを確認して から行う ・受講者が利用者と接して現場の業務を体験できるようにす る

合計	75 時間	
10 振り返り (4 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	2 時間	《講義内容》 ・研修全体のポイントの復習 ・今後継続して学ぶべきこと、身に付けること ○就職講話ー1 「雇用者として望むもの」 ○就職講話ー2 「介護職への就職と現場での体験」
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2 時間	《講義内容》 ・キャリアパスについて ・今後の研修・研鑽の必要性 ・スキルアップの方法や研修会の紹介 ○就職講話ー3 「就職活動と就職支援制度について」 ○演習「履歴書・職務経歴の書き方」 ○講義終了後、修了試験と修了式を行う
合計	4 時間	
全カリキュラム合計時間	130 時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。